

吾川・池川中連合チーム🏆全日本中学生ソフト初優勝



8月13日～15日 大阪市で開催された「第十一回全日本中学生男女ソフトボール大会」(財団法人日本ソフトボール協会主催)に、高知県中学校総合体育大会で好成績を収めた吾川・池川中学校連合チーム(以下吾川・池川中)が出場し、見事優勝しました。

今大会には、都道府県の総合体育大会で上位となった中学校のほか、日ごろから鍛えられているクラブチームや県の選抜チームなど、全国各地から男子十六チーム、女子四十九チームが出場し熱戦を繰り広げました。

その中で、吾川・池川中は投打がかみ合い、先手必勝の理想的な展開で決勝まで駒を進めることができました。

決勝戦の対戦相手は、昨年度の覇者で、三年後の長崎国体を見据えた強化選手の揃う長崎KSC。初回先頭打者ホームランを打たれ、先取点を許す苦しい試合展開となりましたが、三回黒川(浩)選手の内野安打のあと、高橋選手が逆転ツーランホームランを放つなどチーム一丸となって試合を進め、七回を終わって二対二の同点。八回からタイブレークに入り、表の攻撃で一点を先制しました。その裏、あわやホームランという打球を石本選手が見事キャッチアウトにするなど、相手の猛反撃を全員で抑え、苦しい試合を勝利への執念と団結力で制し、大会初優勝を飾りました。

勝利が決まった瞬間、生徒たちはマウンドへ駆け寄り、喜びを爆発させました。生徒・保護者共に目に涙を浮かべ、喜びを分かち合いました。

【吾川中選手】 ※()内は登録ポジション

- 3年 石本真一郎(投)、大野直樹(捕)、井上竜成(一)、井上優希(二)、高橋亨太(左)、片岡宜久(中)、浜口淳也、日浦翔也
- 2年 掛水誠史(三)、大野晃平
- 1年 北原 匠(遊)、谷口 颯、片岡翔吾、片岡 歩、岡田健志、梅原 大

【池川中選手】

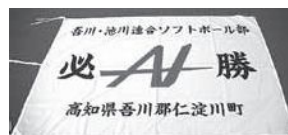
- 3年 黒川友貴(右)
- 2年 吉岡顕大
- 1年 黒川浩平、上野莉玖、竹本樹希也、押岡英理菜



決勝戦、ピンチでピッチャーを励ますナイン

さくらクラブ・清流クラブが応援旗を寄贈

8月11日 大会出発前日、総合型地域スポーツクラブ「さくらクラブ吾川」の大原哲夫会長と「清流クラブ池川」の上尾勝日己さんが吾川中学校グラウンドにかけつけ「少しでも選手の力になるように」との思いで両スポーツクラブが作成した応援旗を吾川・池川中学校ソフトボール部に寄贈しました。



【試合結果】

- 一回戦 11-2 野比中(神奈川)
- 二回戦 15-0 富士ジュニアハイスクールS.C(静岡)
- 準決勝 5-3 新島学園中(群馬)
- 決勝戦 3-2 長崎KSC(長崎)
投 片岡(宜) - 捕 大野(直)

【スカッシュバレー】

第35回県民スポーツ大会吾川地区スカッシュバレー大会

(5月22日 いの町立吾北体育館) ◆青年混合の部

優勝 清水 (いの町)

準優勝 名野川スカッシュ (片岡章子、品原敦子、梶原一紹)

3位 本川中学校 (いの町)

仁淀川町体育会交流スカッシュバレー大会

(8月2日 吾川中学校体育館)

優勝 甫木元泰寛、片岡章子、品原藍チーム

準優勝 品原進、池内真弓、品原敦子チーム

3位 堀田富美江、宇賀高宏、宇賀美佐チーム



仁淀川町体育会交流
スカッシュバレー大会



【ゲートボール】

①第35回県民スポーツ大会吾川地区ゲートボール大会 (6月30日 スパーク吾北)

優勝 長者川 (山本壽、西村直則、坂本達男、山本増一、掛水一子)

準優勝 下八川 (いの町)

3位 清流池川 (片岡利恵子、鎌倉シゲ子、渡邊今朝高、戸梶民子、片岡宗行)

②仁淀川町体育会交流ゲートボール大会 (7月14日 仁淀観光センター)

優勝 清流池川 (藤原徳幸、山口芳正、渡邊今朝高、戸梶民子、岡添忠幸)

準優勝 三葉 (片岡豊廣、竹本信雄、日浦秀男、山崎健、片岡タマル)

3位 加枝ニコニコ会 (藤原勉、森田峯子、豊岡ツル、大崎ツヤコ、山田静香、藤原美喜)

【バレーボール】

高吾北社会体育連盟ミックスバレーボール大会

(7月27日 越知町民体育館)

優勝 仁淀川町 (小野正志、中川和仁、山本良輔、上村学、岡崎加津代、山中貴子、鈴木三佳)

準優勝 K A R A 3 2 (越知町)

3位 広域A (越知町)



【ソフトバレー】

高吾北社会体育連盟ソフトバレーボール大会

(8月7日 池川体育館) ◆フリーの部

優勝 越知ファミリー (越知町)

準優勝 仁淀ファミリー (西森廣海、掛水政明、西森康子、中嶋学美、若藤富雄)

3位 池川B (小野正志、上村学、金尾愛、山本まや)



サイエンスツアー in AGAWA

7月23日 山村自然楽校「しもなの郷」で町教育委員会主催のサイエンスツアー in AGAWA が行われ、三十五人が参加しました。この行事は、NASAプロジェクトに加入して木星電波観測を行っていることなどをきっかけに、町内をさまざまな科学的視点でとらえ、より分かりやすく楽しく学ぶ機会を提供し、山間部で可能な科学に触れる機会を作ろうと企画されました。

当日はまず、本町で生まれ近代産業の基礎を築いた金子直吉翁の偉業とそのルーツについて、研究家の吉原強氏の講演を聞きながら楽しく学びました。後半は株式会社西日本科学技術研究所技術顧問の前中良啓氏による「森の働きとその重要性」「これからの森造り」「雨によって川が濁る仕組み」など、たくさんの方の模型や実験を交えての分かりやすい講演に、参加者たちは時折身を乗り出して耳を傾けていました。参加者からは「森の大切さが分かった。今から少しでも間伐をやらなければ」などの感想が聞かれました。

本年度は、このようなサイエンスツアーを四回計画しています。次のサイエンスツアーの内容は、次のとおりです。

第2回サイエンスツアー in AGAWA

日時：9月17日（土）14時から ※入場無料

場所：中津溪谷 ゆの森

内容：宇宙科学の第一線で活躍中の宮地竹史氏（石垣島天文台副所長）、今井一雅氏（高知高専電気情報工学科教授）、鳴沢真也氏（兵庫県立西はりま天文台主任研究員）を迎えての講演会や交流会

申し込み・問い合わせ

仁淀川町教育委員会生涯学習係 ☎ 35-0019



前中良啓氏による講演の様子

織合の七夕飾り

8月7日 今年も織合川に七夕飾りが渡されました。織合、太郎田、大植、白石川の気心知れた仲間が結成した「ホタルの会」のメンバー数人が集まり、たった一日で七夕飾りを完成させました。

わらの馬や色とりどりの切り飾り、チェーンソーで作った木刀などが、約30mの縄に飾り付けられています。今年は昨年の反省を生かし、古いテレビ線を使って時間が経っても縄が緩まない工夫をしたそうです。

発起人の一人は「お盆に帰省する家族は少なくなったけど、なかには小さい子どもを連れて帰ってきてくれる人もおる。少しでも喜んでもらえれば嬉しい」と話していました。



色とりどりの七夕飾りが谷の風にそよいでいます

わんぱくカーニバル in 仁淀に400人 真夏の長者川で川遊び満喫



今年もたくさんの方が川遊びを楽しみました

8月12日 長者川で夏休み恒例「わんぱくカーニバル in 仁淀」が行われ、町内外から集まった小学生以下の子どもら約400人が川遊びを楽しみました。

当日は天候に恵まれ、アユやアメゴ、ウナギのつかみ取り、アユしゃくり大会、スイカ割りなどたくさんの催しが行われました。

素早く逃げる魚に苦戦する姿が多いなか、こつをつかんで何匹もつかまえている小学生もいました。またお父さんの影響で普段から釣りに親しんでいる子もいて、アユしゃくり大会の会場は白熱していました。

真夏の太陽の下で一日川遊びに興じた子どもたちは、疲れも見せず満足した表情で帰路につきました。

大盛況の第4回七夕まつり

8月7日 長者の棚田で、第4回七夕まつり（同実行委員会主催）が開催されました。

前日から2日間にわたっての準備を、実行委員会ははじめ地域の方がボランティアで行いました。

祭り前日には悪天候のなか、手作りの飾り物やちょうちんを約200mのワイヤーにつり下げ、機械を使って巻き上げました。当日の朝には、地域の子もたちが願い事を書いた短冊や習字も取りつけて、準備万端です。

夕方、地域の方お手製の地場産品や、飲食コーナーの販売が開始されると、どんどん人が集まり始めました。

ステージでは仁淀和太鼓「一圓想」の演奏や中川ミキさんのフルート演奏、「地元に住みます芸人」の淀家萬月さん（吉本興業所属）のバルーンマジックと南京玉簾など、たくさんの催しが行われて大盛況でした。

日が落ちると、ワイヤーにつり下げた約180個のちょうちんの明かりが、長者の夜空に幻想的に揺れていました。

長者の空を彩る七夕飾り



長者の夜空にちょうちん180個



盛り上がるイベント会場

嬉しい再会も

平成20年に復活した長者の七夕まつり。
手島慧里さんは高知大学一回生だった当時、七夕まつりの復活に携わってくれた一人です。

今春大学を卒業した手島さんは、株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシー（吉本興業グループ）に就職し、今回淀家萬月さんに付き添って再び長者へやってきました。長者には顔見知りも多く、あちこちで話しかけられては笑顔で応えていました。



手島さんと淀家萬月さん

ロードボランティアとは道路の清掃美化や緑化作業などのボランティア活動のことです



株大一林組が迂回路の草刈り

そこで株式会社大一林組は、地域の役に立てばと六月二十五日、二十七日、七月一日の三日間、役場直営班の作業に協力して、ロードボランティア活動（草刈りなど）を行いました。

しかし当初、迂回路には草木が生い茂って路肩や路側が分かりづらく、また梅雨時のため夜間には濃霧が発生して視界が利きにくいなど、車の運転がしづらい状況でした。

現場より奥の集落の住人（約百七十人）は、林道下土居松谷線と川舟線を経由するルートを、迂回路として利用することになりました。

五月三十日に国道494号（高知県管理）の百川内地区で、地すべりによる崩落が発生し、全車両が通行止めとなりました。（現在は片側交互通行）

地域のためにロードボランティア